

## 福山市環境審議会 議事概要

### 1 日 時

2013年（平成25年）12月19日（木）10:00～12:00

### 2 場 所

福山市役所3階 大会議室

### 3 出席委員

西嶋会長，笠木委員，金子委員，熊谷委員，後藤委員，  
瀬尾委員，中村幸司委員，橋本委員，村田委員

### 4 議 事

- (1) 会長，副会長の選任について
- (2) 福山市環境マネジメントシステム（FEMS）について【報告】
- (3) 福山市環境基本計画の中間見直しについて
- (4) その他

### 5 議事要旨

- 会議は公開で行われ，会議の開催情報や議事概要等について積極的に公開していくことでの了承された。
- 事務局より，定足数を満たしていることが確認された。
- 委員の互選により，会長として西嶋委員が，副会長として中村喜久江委員が選任された。
- 福山市長から福山市環境審議会会長に，福山市環境基本計画の中間見直しについて諮問された。
- 事務局より，福山市環境マネジメントシステム（FEMS）の報告がされるとともに，福山市環境基本計画の中間見直し及び福山市環境基本計画（改訂）（素案）の説明がされ，概ね了承された。

#### （意見の概要）

福山市環境マネジメントシステム（報告）について  
福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

<重点プロジェクト3> 「中小事業者等の取組の総合的な支援・促進」

- 入札時にISO14001等の環境マネジメントシステム認証取得を評価項目と

していることについて、認証取得後、環境マネジメントシステムの取組が定着したとして認証を返上した場合に、認証取得事業者と同様に評価する仕組みがあっても良いのではないか。今後、福山市と同様に、独自の環境マネジメントシステムを導入されるケースも想定される。

⇒ 今後の対応については、契約部門の関係課などと協議する中で、検討していきたい。

#### <重点プロジェクト4>「太陽エネルギーの導入促進」

○2014年（平成26年）4月から消費増税が行われるが、太陽光発電システムの補助金額について、将来的な方向性はどのように考えているか。

⇒ 国の施策など、様々な社会状況を鑑みて検討するとともに、太陽光発電に有利な地域性を活かし導入を進めていきたい。

#### <重点プロジェクト5>「低炭素型交通体系の構築の推進」

○目標において、ベスト運動の登録会員数の実績の記載があるが、それ以外で効果の測定はしていないのか。

⇒ 国土交通省等と連携する中で、ホームページ等において、CO<sub>2</sub>削減量も公表している。

#### 福山市環境基本計画の中間見直しについて

##### 全体について

○見直し案において、現状（2007年度〔平成19年度〕）と目標（2018年度〔平成30年度〕）の数値のみの記載となっているが、見直し時点での中間の実績を記載してはどうか。

⇒ 意見を踏まえ、見直し案を検討する。

○削除する施策について、単に削除するのではなく、新たな施策を設定してはどうか。

⇒ 環境基本計画の中では、市としての基本的な施策の大きな方向性などを示すこととしている。今回、削除する項目については、各施策の中で取組を行っていくこととする。

○環境基本計画に沿って施策が推進されているが、市民のユニークな発想で出てきた取組や事業のアイデア等を、自発的に支援してほしい。市民との協働の観点から、柔軟に対応してもらいたい。

⇒ 福山市環境審議会やパブリックコメント等、多くの意見をいただく中で、

福山市環境基本計画の改訂に反映させていきたい。

#### 生活環境の保全，快適環境の創造について

○芦田川の水質浄化については，ワーストワンを返上するなど，水質改善を実感できる方策を，市として考えてほしい。どのように考えるか。

⇒ 水質自体は緩やかな改善傾向にある。今後についても，国土交通省，広島県及び芦田川流域全体の市と連携して，様々な取組を推進していく。

#### 循環型社会の構築について

○ごみ減量プロジェクトについて，改訂にあたりさらに推進する取組や別の方法を考える等，何か具体的なものはあるか。

⇒ 2004年度（平成16年度）にごみ減量大作戦という形で，市民・事業者・行政の協働で，ごみの減量化・資源化に取り組んできた。その中で，紙ごみについては資源回収・集団回収，生ごみについては生ごみ処理機補助や段ボールコンポストの推進等に取り組み，2015年度（平成27年度）の一般廃棄物排出量の削減目標を，2009年度（平成21年度）に6年前倒しで達成しており，今後も引き続き取組を推進していく。

○生ごみ処理機の補助制度はどのようなものか。また，段ボールコンポストについては，支援はあるのか。

⇒ 生ごみ処理機の補助については，機械式・コンポスト・密閉式のものを設置した家庭に対して，購入金額の2分の1（上限15,000円）を補助するもの。過去5年以内に世帯内にこの補助金を受けた人がいない場合は，2度目の申請も補助対象となる。

段ボールコンポストについては，緑のカーテン啓発事業と併せて，アンケート調査等の実証を行った。今後については，出前講座等において，取組を広げていきたい。

#### 低炭素社会の構築について

○自転車を利用できる環境整備に取り組んではどうか。また，それを重点施策の交通対策プロジェクトの中で整理してはどうか。

⇒ 主管である建設局などと密接に連携し，環境部としてもCO<sub>2</sub>の削減に取り組んでいく。意見を踏まえ，見直し案を検討する。

○バス会社に対して，排気ガスのきれいなバスの導入に対する補助金や，府

中・福山間を運行しているバスに対して、府中市と協力して補助する等の施策があるか。

⇒ 主管である建設局において、バスも含めた交通体系について、全体的に取組を進めている。今後も、関係部署と連携する中で、新しい施策が出れば計画に反映するなど、環境部としても広くみなさまにお知らせしたい。

○住宅用太陽光発電システムの導入について、環境指標の数値に大きな変更があるが、どのような経過があるのか。

⇒ 2011年（平成23年）3月に策定した「福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」との整合性を図ったものである。策定時に、住宅戸数が約11万戸であり、その内4分の1程度として普及目標を設定した。今後も、目標に向けて導入促進に努めたい。

#### 環境学習・環境教育、協働の推進について

○「ふくやま環境大学」について、現在の受講生が修了した後のフォローアップ等については、どのように考えているか。

⇒ 現在検討中である。最終目標の具体としては、出前講座の講師や次世代エネルギーパークの環境観光のガイド等を考えている。

○「ふくやま環境大学」を修了した後、次世代の環境教育に関わっていくという観点からみると、受講生の年齢構成も検討が必要ではないか。

⇒ 本年度の受講生は、60歳代が中心になっているが、大学生も参加されており、将来的には、若い世代の受講生も増えると期待している。